



アンネのバラ

# 吉高人権だより

2021年 7月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

## 『はだいろ』

数学科 佐竹 雅範

私が住んでいる西予市宇和町では、1～2ヶ月に1回くらいの割合で回覧板が回ってきます。地区のお知らせが回覧板にはさまれて、それと一緒に様々な刊行物も一緒になってるので、一部ずつ取って次の家庭に持って行く仕組みです。いつもはサインして、広報などを取ってはろくに見ないで古新聞に重ねるのですが(^\_^;)、4月の回覧板の時にふと目にとまった記事がありました。「ふれあいだより」の『はだいろ』についてです。みなさんは『はだいろ』って分かりますか？色鉛筆や絵の具の色のことです。私が子どもの頃は『はだいろ』がありました。しかし、今は同じ色でも『はだいろ』という標記はしないという内容でした。え～っ！そうなのかと驚いて、一人暮らしを始めたばかりの娘に連絡して聞いてみました。すると、確かに『はだいろ』はなかったようで、うすだいだいやペールオレンジという名前になっていました。調べてみると色鉛筆は平成12年、絵の具は平成19年に表記が変わったそうです。勉強不足な自分が恥ずかしい…。

大坂なおみ選手、八村塁選手など、今、日本には様々なルーツを持つ方が暮らしています。そのような人々にとって、『はだいろ』はこの色と決めつけることは、とても不愉快なことでしょう。悪気はなくても古い固定観念は差別を生む偏見につながるのだと思います。そういえば、以前勤めていた特別支援学校でも、“障害”ではなく“障がい”、“障がいを持った方”ではなく“障がいのある方”と表現することなどを教わりました。世間でも、LGBTにQ（クエスチョニング）を付けたLGBTQやノン・バイナリーといった考え方も増えています。みんな違っていい、むしろ色々違った方がいいことがある。そんな多様性（ダイバーシティ）の社会を、みなさんはこれから生きていきます。固定観念に縛られず、柔らかい頭で違いを受け入れ、相手の気持ちを感じことのできる大人になってください。そうすれば未来はきっと『にじいろ』でしょう！



## 【1学期人権・同和教育ホームルーム活動】



6月18日（金）に1学期の人権・同和教育ホームルーム活動が行われました。1年生は「人権問題を考えるⅠ」のテーマで様々な人権問題を取り上げ、ものの見方の多様性や相手を傷つけない言葉の大切さなどを学びました。2年生は「人権の歴史Ⅰ」のテーマで差別の起こりや差別されていた身分の人々がたくましく差別と戦って生きてきた歴史について学びました。3年生は「就職差別と自らの関わり」のテーマで模擬面接などを行って「差別につながるおそれのある14項目」について学び、面接の際にどのように対処すればよいか考えました。

生徒の感想を紹介します。

今回の人権・同和教育ホームルーム活動で、ステレオタイプについて考えました。結論としては、ステレオタイプは単に「悪いもの」とは言い難いとなりましたが、偏見で人を決めつけるのは悪いと思いました。そして、否定的な表現をリフレーミングして肯定的表現に直すと良い言葉と感ずることができると思いました。しかし、普段の会話で1つ1つの言葉を考えて話すのは難しいので、改めて言葉の重みや意味を考えて話すことが大切だと気付きました。

今回の人権・同和教育ホームルーム活動で差別の歴史を知ることができました。差別はしてはいけないことだという気持ちが更に強くなりました。今後も差別をせず、差別している人を見つけたら指摘できるようにしていこうと思いました。

今、自分は就職差別について学習を始めました。進路実現のために準備を進める中で、就職試験（面接や履歴書）の昔のものが差別につながる可能性があるということを知りました。今は全く状況も違ってきているし、もし自分がそのような場面に出会った場合はどのように対応したらよいか学習することができたので良かったと思います。

### 【用語の説明】

LGBTQ・・・レズビアン（女性同性愛者）ゲイ（男性同性愛者）バイセクシュアル（両性愛者）トランスジェンダー（心と体の性が一致していない方）に加えて、自分の性がわからない・区別できないという「クエスチョニング」のQを加えたセクシャルマイノリティ（性的少数者）全般を指す言葉  
ノンバイナリー・・・身体的性別にかかわらず、自分自身の性自認に「男性」「女性」の枠組みをあてはめようとしないと考え方